

愛海詩

えみし

美術家 (東京都)

しずむね

松田 静心

絵画展

みえないもののありか...

4月12日～4月26日

特別号 No.30

工芸・愛海詩の会
会報

平成24年4月10日発行

編集発行人/ギャラリー愛海詩
佐藤 睦子

〒064-0821

札幌市中央区北1条西28丁目2番17号
TEL・FAX/(011)613-1112

WEBSITE

http://www.emishi-s.com
E-mail:kougei@emishi-s.com

本日のこと

歴史のストーリーはいつもの勝者のものである。我々はどれほど真実を教えられているのだろうか。一つの側面だけとらえて、それがあたかも全てのように語られ、一方的な薄さが一人歩きし、増長する。一方的なのは歴史だけではなく、その時々々の事象の中にもある。

本日はどうということなのだろう。本日は何処に隠れているのだろうか。本日は多面の集約の中にある。本日を写す鏡はあなた自身の中にあるのだ。

たとえば誰でも登られる山がある。その山の頂上には本物の宝(真実)が隠されている。人々はいろいろな方向から、それを知りたいために登る。直線の道は早く

辿れるが(一方的な見方)、鏡が曇り宝を捜し出すことも本物がどれか分からないまま往々にして解ったつもりになったりする。しかし、螺旋に登ればゆっくりだが、各々の見方を集約でき、鏡も多面から磨かれ輝き、本物の宝がなにか見えてくるのである。鏡とはみずみずしい感性、知恵、そしてそれを裏付ける知識のことだ。

本日は、核心は、そんなに薄く甘く、声高な、悪の蜜のようなものではない。もつと豊かで、慮るところにひっそりと咲く雪間の春の花のようなもの、研ぎ澄まされた日本刀から照り返される光のようなものなのだ。花と刀、相反するものあわいの中で揺るぎなく潜むものなのだ。

(佐藤 睦子)

☆お知らせ

4月13日(金) 午後3時～午後4時

徳川家広氏と美術家・松田静心が絵画めぐり、美術家の仕事振りも含めてジョイントトークをいたします。ご参加ご希望の方は10名様先着順でございますので、ギャラリー愛海詩まで早目にご連絡お待ちしております。

徳川家広氏講演会ご案内

- ◎4月14日(土)
「経済の潮流」札幌市教育文化会館 小ホール、14:00～15:30
- ◎4月15日(日)
「歴史の攻防」札幌市教育文化会館 講堂4F、14:00～15:30
- ◎講演チケット、各2,500円
- ◎徳川家広氏は徳川将軍家の直系19代目。翻訳家、政治経済評論家でもあり、国内外でご活躍されています。ぜひこの機会に講演をお聞き下さい。お問い合わせはギャラリー愛海詩まで…。

連絡をする度に、松田静心は息をつき、走っているかのような。今の若さ、輪の重ねを惜しむかのように。それが絵を生業とする者の宿命のように。生と死の両極を希望の光で映し出し、その刹那の刹那をつかまえて、筆を走らせる。刹那のリンクこそが心を震わせ、幸福感に満ちたものであるからか…。松田静心の絵は、観る人自身の心を映し出す不思議な魅力があるのだ。その不思議をみなさんに体感していただきたい。ご高覧下さい。ご縁をいただいた徳川家広氏に感謝申し上げます。



(創作中の松田静心)



キャンバス+桜島火山灰+アクリル+油彩+胡粉+雲母 F10 (530×455mm)

プロフィール

鹿兒島県出水市(旧野田町)出身。東京在住。日常の中で出会う様々な存在と現象から感じる心の動きを、平面作品と空間によって表現している。

近年は郷土鹿兒島、桜島の火山灰(シラス)を使用し、アクリル絵の具他、水性絵具、油彩、胡粉、雲母、水干、箔等を使用した混合技法により、単色を何層にも塗り重ねたシンプルで鮮やかな色面構成による作品を制作している。「火山灰が、深みのある色味とざらりとした肌質を生み出し、静かな大地の鼓動をも感じさせる作品」と評される。

毎年東京銀座で個展を開催。グループ展は東京を中心に横浜、兵庫、京都、滋賀の他、韓国・ソウル、釜山、金泉、カナダ・チリワック、スペイン・コミージャス等、国際展出展。

「日仏現代美術世界展」「スペイン美術賞展」「現展」「朝日銀座展」他入選。

作家ご挨拶～作品展によせて～

現在は「みえないもののありか…」をテーマに、制作を続けています。

見えないけれど確実に存在するもの。その存在を再認識し意識化し具現化する。それが制作なのです。

そして、制作行為と作品は“生”の証明に他ならず、それこそが芸術そのものなのです。

この既成の概念に囚われない“静画無法(じょうがむほう)”を信条として続ける、無謀な取り組みはすべての存在へのオマージュであり、“生=死”の本質を解明するための自我との闘いでもあります。

不透明で予測不可能な明日と閉塞感に満ちた現代において、一条の光、希望の一片、安息の譜となる作品を生み出すべく制作を続けています。

郷土南国鹿兒島、桜島の火山灰を取り入れた作品を、北の大地、札幌の皆さんに見て頂く機会を得られた事を嬉しく思いますと同時に、どのように感じて頂けるかを少しの緊張と共に楽しみに致しております。

(美術家・松田静心)



キャンバス+桜島火山灰+アクリル+油彩+箔 S12 (606×606mm)



キャンバス+桜島火山灰+アクリル F0 (180×140mm)



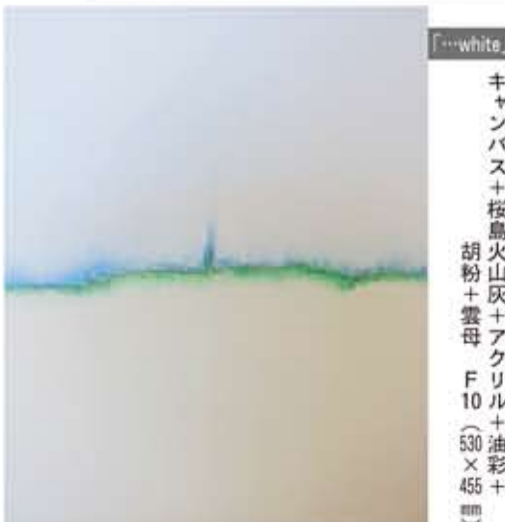
キャンバス+桜島火山灰+アクリル+油彩+箔 F4 (333×242mm)



キャンバス+桜島火山灰+アクリル F10 (530×455mm)



キャンバス+桜島火山灰+アクリル M15 (662×455mm)



キャンバス+桜島火山灰+アクリル+油彩+胡粉+雲母 F10 (530×455mm)



左の写真2枚は、昨年東映系にて全国公開された映画、「行きずりの街」の場面です。松田静心の絵画作品が場面を象

徴するように映し出され、素敵でおしゃれな空気感を醸し出しています。静かだけど雄弁、心にずっと落ち着く存在感なのです。